

研

71. *Prichirus japonicus* Sharp クロツヤハネカクシ 田代(福田)

北. 2813 保. 260

72. *procirrus lewis* Sharp エビチヤクビナガハムシ 池泉(福田)

北. 2841 保. 286

心に残つた植物 10 種

今 井 長 太 郎

チヤボガヤの巨幹(イチイ科)

所在地 三方郡三方町字世久津区 武長宗兵衛氏所有山林内

胸 囲 1.36 m 樹高 7.92 m

同 1.19 m 同 5.00 m

上の如く二株あります。匍匐状に斜上して居ります。チヤボガヤは幹が直立せず、株際で沢山枝分れをするのが特徴だそうですが、此の木も根元で三種に分れ、その最大ものが1.36m、高さ7.92mもあり、次の桿もそれに準じた程であります。下の段のものはちよつと細いけれども上記の様なもので、常識上桁の外れた巨きなものであります。二本とも雌本であり豊大な種実が沢山なります。

所有者武長氏は先々代から此の木の稀有なことを承知で、代々愛護して來たと言つて居られます。(昭和34年11月24日調)

クマヤナギの巨幹(クロウメモドキ科)

所在地 小浜市旧松永村字門前 明通寺境内

太さ目通り 0.37 m 0.29 m

以上二株になっていて、これは纏縫性灌木であつて、傍の木の上に纏りついで繁茂して居ります。通常のこの木の太さは精々ステツキ位のものですが、これは上記の様な巨大なものであります。生育の場所が寺院境内つづきで林樹の蔭地で、しかも蔓性の姿ですから余り、バツとも致しませんが、本田博士はこんな大きなものは始めてだと申して驚いて居られました。寺ではオオクマヤナギと説明して居ますが、これはクマヤナギの巨きなものです。(昭和33年3月19日調)

イヌツゲの巨幹(モチノキ科)

所在地 遠敷郡上中町字下中区 田辺卯一郎邸内

太さ目通り 0.49 m 樹高 4.96 m 枝張り 経 3.63 m

此の木は觀賞用の白班入りで、勿論栽植品である。イヌツゲは当地では灌木であつて太いものでも精々物乾し竿ぐらいが普通であるが、樹高も枝張りも太さに相応して均整がとれていて見事である。これだけのものは他では見当らない。(昭和34年6月19日調)

アマチャの自生地(ユキノシタ科)

†

所在地 遠敷郡名田庄村字染ヶ谷 同村字堂本地籍山林仁吾谷 同村虫谷地籍山林等。京都府北桑田郡にまたがつてゐる。分布区域の広さは判らないが甚だ広い範囲であると思われる。此の植物はユキノシタ科のアザサイ属に属して同属サワアザサイに酷似して、肉眼的には両者の区別はつけ難いのであります。ただその葉の味覚が甘いのでこれをアマチャヤと/orするので、前記六ヶ處の分布調査の時には、ことごとく口で見て決めたのであります。染ヶ谷区域では染ヶ谷川の溪側に添つてヨモジロ橋附近を調べて見ましたが、十叢を求めて噛んで見たが、十叢ことごとく甘茶でありました。

堂本の仁吾谷にては蛇の谷口から、足谷と言う地点まで約1キロ米弱の間に約二十叢噛んで見たが、その中の十叢は甘くなかった。甘茶は約半数と言えましょう。

虫谷では割合を調べることは出来なかつたが、沢山分布して居る事は確実である。甘味の濃厚なのは初夏の候で、秋になると甘味が遠のきます。しかし措葉にして乾かすと甘くなります。それでサワアザサイと区別がはつきりつく訳であります。アマチャヤは通常は栽培植物が常識であり、寺の後庭等に植えられて4月8日の仏誕生会の用に使います。これが自主して居ると言ふことは誠に珍重すべき事であつて天然記念物保存要目其ノレ6に培養植物の稀有なる原産地と出て居ります。例として霧島山中に於けるカイドウの自生地と添書までしてあります。このアマチャヤの如きも、その稀有なる原産地ではないでしょうか。小生はこの調査を致しました時、東大の本田博士から「詳細に御調査の上御報知下さいましたことを厚く御礼申上げます。これで学界のために益する所が多大であることを信じます。この上とも御精励の程よろしく言々」と御激励を頂いたことで御座いました。(昭和25年10月26日調査)

オオエビネ(ラン科)の自生地

オオエビネは日本の西部山中に自生ありというが、多くは培養して観賞の用に供すと言われて居まして、先づ当地辺では無いものと思つて居たものであります。それが青葉に自生する事が判りました。

所在地 青葉山旧内浦村地籍になり頂上東西峰の鞍部西側通称奥山谷一帯

特徴、大体キエビネの大型と思えばよいが、葉の長さも25センチはあります。花の型も経3センチは超える程で、花色は美麗な鮮黃白色、五片の花蓋は内側に屈曲して、ふつくりと、内蓋を抱いて居る。一茎に78箇の花を総状につけ、目も醒める様な鮮黃白色である。5月下旬に前記の場所で発見したが、恐らくは当地方でも見た人は少ないのでしよう。次回に神野地籍の奥山谷を200米程登つた溪側に於て二株を発見採掘して、ただ今、我が園隅に養つてありますが、既に豊大な花芽を萌出して居ります。(昭和33年9月11日調査奥山谷を見た日)

メグスリノキ(カヘデ科)の巨幹

所在地 三方郡美浜町字佐柿 史蹟 国吉城址

太さ胸囲 約1.815m 地際で 3.91m 傾斜地の故に多少誤りがあるかも知れない。

書物には落葉喬木として高さ10mにも達するとしてあるが、小生が若狭地方で見た、此の木は灌木状態で3mを超ゆるものを見たことがなかつた。

然るに、此の古戦場国吉城の本丸跡西側の傾斜地に前記の様な巨幹がある。恐らくは若狭地

方では最大のものであろう。

特徴、葉は三出複葉、小葉は長さ 10 センチ、巾 4 センチ程の割合大きな葉であり、裏に脉に副うて長い毛が密生して居る。秋の紅葉は赤色でなく桃色の勝つた色で、大きな木は格別美麗である。樹皮の煎汁は眼薬になると言うので、この名があるのだそうである。別名をチャウジヤノキ(長者ノ木)とも言う。(昭和 34 年 11 月 5 日調査)

ナギ(イチイ科)の巨幹

所在地 小浜市旧加斗村字西勢 黒駒神社境内

太さ 目通り 3.60 m 高さ 約 16.00 m

特徴、常緑喬木で勿論自生品ではなかろう。葉は光沢ある深緑色で長さ 5 センチ内外、巾 2 センチくらいの平行脈の単葉で厚く強靭である。雌雄異樹でこゝのは雌株と思われる。

これは参考までにであるが、静岡県熱海の海蔵寺のナギは 3.59 m それから愛知県豊橋牛窪能野神社のナギは 3.59 m どちらも天然記念物に指定されております。(昭和 34 年 5 月 21 日

調査)

クサヤマブキ(ケシ科)の自生地

所在地 三方郡三方町字能登野熊登神社境内

特徴、樹下の蔭湿地を好む宿根草本で高さ 30 センチ内外、柔い弱い質で切り口から黄色の乳汁を出すことは、クソノワウと同じである。根株から出る芽はセリに似た羽状複葉で茎から出る葉は同じ羽状複葉だけれども葉の型が大きい。花は黄色で色も大きさもヤマブキと酷似して居る。この植物は、若狭地方ではこの場所以外では、まだ見つからない。滋賀県境辺に在りそうな気がするが、まだ確かめて居ません。開花は 5 月ですが、新緑の候樹下の蔭地に瑞々しい鮮黃白色の美花を見出した時は全くハツとして、すぐクサヤマブキと直感しました。忘れられない感覚の一つであります。(昭和 31 年 5 月 15 日調査)

モチノキの奇形(モチノキ科)

所在地 三方郡三方町字能登野 村田鉄藏氏邸内

特徴、この木は普通のモチノキでなく面白い奇形をなして色々の点で参考になることが多い。村田氏邸の後背の防風樹としてあるもので並んで 3 本ある。仮りに北より甲乙丙の三株とし、甲株は根廻り 1.98 m 高さ 4.85 m(家屋の側)は大きな外傷のために枯朽して、ほとんど扁平になり、その下部 2.64 m は表側の方まで空洞になつてぬけて居る。

それから乙株は甲株と並んでおり、根廻 1.29 m、高さ 7.57 m である。株の土際から一枝が発出して甲株の空洞の頂上で甲株の樹身になつて居る。即ち甲乙両株はもと一樹身であつたが、外傷のために根元から両分したものであると思われる。

丙株は甲乙両株と一列に並んで同じくらいの間隔であるけれども、別株の様に思われるから問題外として、今甲乙一株として根廻を側つて見ると 3.76 m、直徑を測つて見ると 1.78 m あります。これはモチノキとしては恐らく巨大なものと言われなければなりません。小生はこの奇形樹を見付けたのは昭和 31 年の 5 月 31 日で写生をして保存しておきましたか、今年昭和 35 年 1 月 20 日再び同処に行つて見ると甲乙両幹をつないで居た大切の証拠木片が下部において枯れて離れてしまい、4 年以前の姿とは變つて居るのは惜しいけれども、写生がある

からまだ話しあります。

弘化3年7月3日(西暦1846年)に同地に大火があつて、成願寺部落3戸、上野部落30戸、能登野部落70戸を焼尽した稀有の凶災であつたのであります。これはその記念物ではないかと思われます。この傍に並んでタブの木又はスダシイなどの相当の木がありますが、その火災以後のものと思われます。弘化3年は今から114年前です。(昭和35年1月20日再調査)

ウラジロガシの巨幹(ブナ科)

所在地 敦賀市小河区八幡神社境内

太さ 目通り 4.65m 高さ 15.80m

この木の生へて居る所は上下二段の地形で、下段から測量すればすばらしく巨きなものだけれど、木の半身が上段に入つて居る故はかり様がない。上段で胸囲の点を測つて右の様な結果を得たのであるが、この木は正しく上段の土際ではかるべきだつたと思う。なぜなれば上段で目通りを測つたのでは下段から眺めると3メートルも上で測つた事になり、甚だ酷な結果になる。後から気がついた事で、いまでも甚だ気がかりである。即ち、大飯町の伊那岐神社のもの、上中町無悪天満宮のもの何れも兄たり難く弟たり難いほとんど伯中のもので、もしこの小河八幡神社のものを上段の地際で測量したのであつたら、或は主客位置をかえるかもしれませんと思う。心に残る植物として敢えて御報告申して置きます。

日 野 山 の 植 物

北日野小学校 八 田 弘

地図の様なコースで昭和32年から毎年日野山の植物相を調べてみました。ことに33, 34年両年は毎月どの道かを登りました。

○ 順路について

イ 荒谷道 ふもとの日野神社はキャンプ場として開け乾燥した普通の山といつてよく、昔寺があつたといわれる杉の繁つている「オデラ」に達するaの道は尾根伝いであり、一方bは伐採地だが谷を通つている。「オデラ」をすぎると、この道最後の泉であり、ここから西谷道との分岐点までは樹下の蔭地である。この辺の標高は大体400mで、これより頂上までは岩石の尾根伝いで特に西側は急峻な谷に向かつている。滝の上流は広い谷になつていて、スキなどが多くて萌芽以後は登れない。この谷のつくる所は急な岩斜面で危険である。滝の東側の尾根に道があるが、これは中絶して菅谷道に連絡しない木の間をぬつて突破するも難しい。

ロ 西谷道 送電塔のある所までは所謂「ムナツキ八町」と言われる様な急な道であるが、これより分岐点まではゆるい起状のある尾根伝いである。この道も東側と西側の登り口がある。